

**公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会
西日本支部 テアダウン研究会の紹介**

発足の経緯とテアダウンの活性化への取り組み

テアダウン研究会の発足理由

テアダウン技法は、30年以上前から日本企業に導入され、その企業独自のやり方にて活用・進歩してきた。

近年の問題点

- ・新規企業へのテアダウン展開がされていない。
- ・テアダウン技法の進化が期待されている。

テアダウンを有効な技法のひとつとして企業の壁を越えた

『**公益社団法人日本VE協会の研究会**』にて活性化する

テアダウン研究会の経緯

2022年5月発足 毎月企業を訪問して交流を実施する。

2024年1月時点で13企業24人で構成

2023年の活動

- ・毎月の研究会（企業訪問と交流）
- ・2つの企業（ワコール、タクミナ）でテアダウンの開始を支援
- ・日本のV Eエンジニア約2万人にアンケートをとり、各企業でのテアダウン状況を調査

（79人の人から研究会に参加したいとの要望あり）

毎月の研究会（企業訪問と交流）



マツダ



ヤマハ発動機



ワコール



トヨタ



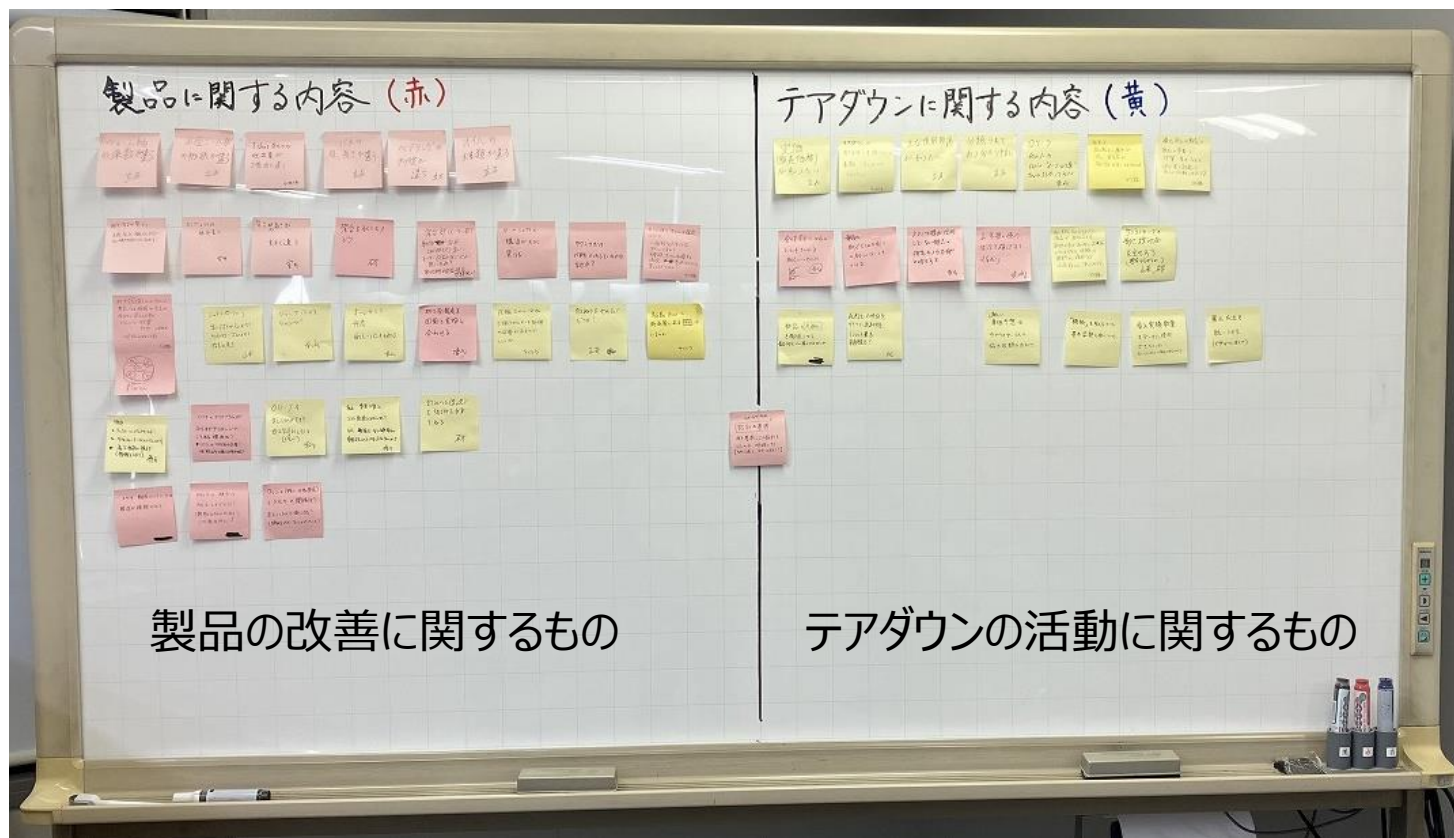
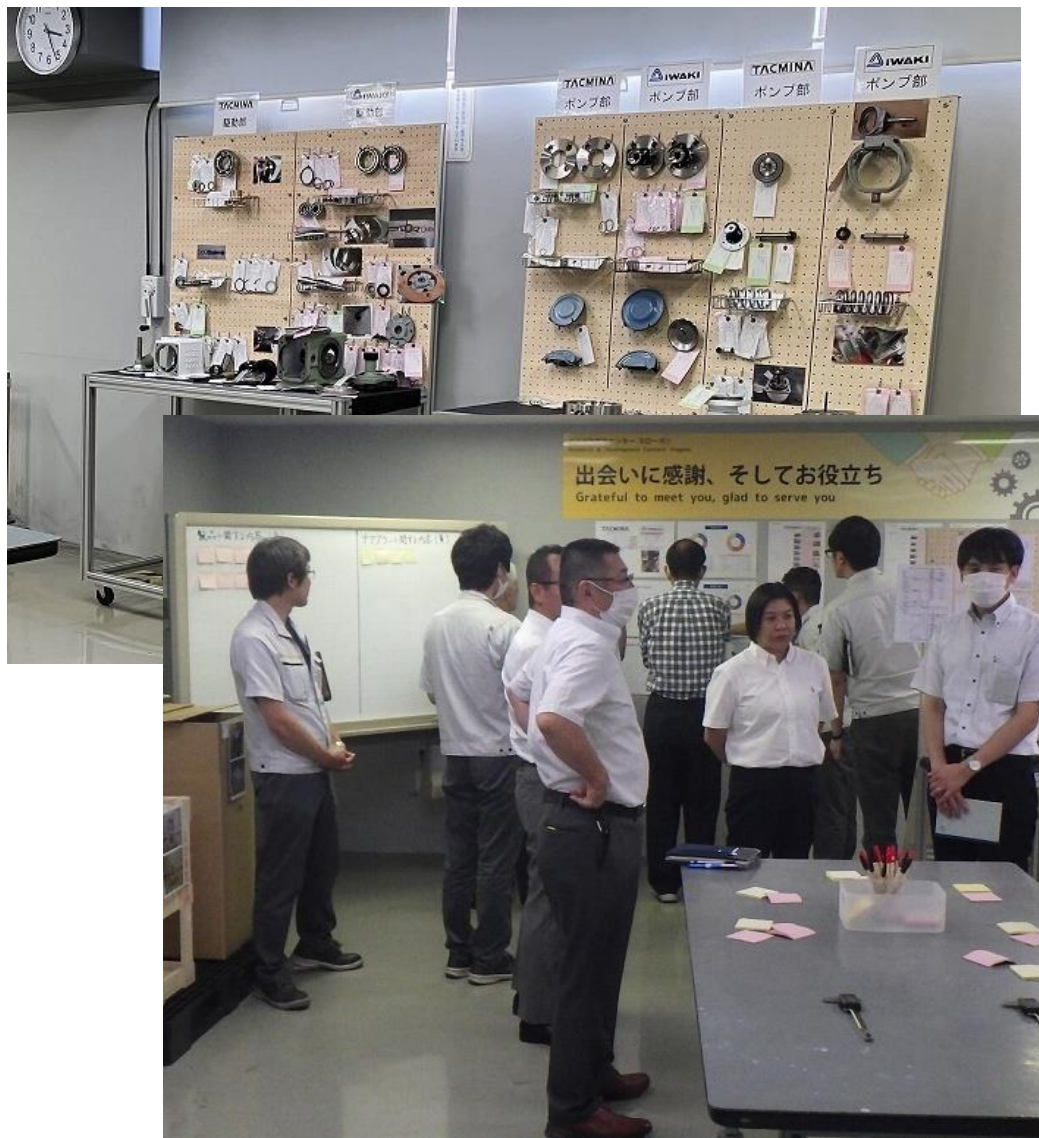
タダノ



三菱重工業

企業でのテアダウン開始を支援

活動を視察してアドバイスする。
本写真は、タクミナ様を訪問したときのもの



テアダウン活性化のための3つのポイント

- **実行リーダーの育成**

他社のメンバーと仲間をつくることで実行することをあきらめない。

- **最適な技法への深化**

他社のメンバーから技法から学び、自分の技法を深める。

- **幅広い知見・知識の探求**

他社のメンバーの知見・知識を共有する。